

かつてそこは深い原始の森で覆われていた  
様々な木々が無数の種を落とし、数え切れないほどの生きものを支えながら、  
長い長い森の時代が続いていた

ある日、人の生活と引きかえに巨木は倒され、  
決して絶えることのなかった命の環がぶつりと切れた  
もうこの土地はどんなふうにも姿を変えても不思議ではなかった

1977年。ここが「知床」であり続けることを望んで立ち上がった人々がいた  
はじめ小さかった波は次第に大きなうねりとなり、確実に何かが変わっていった

21世紀となった今、この地をもとの原生林に戻し、  
一度切れた命の環をつなぎなおそうと本気で考えている人々がいる

## 100平方メートル運動の森・トラスト

遙かなゴールを目指す長い旅は、まだ始まったばかりだ